

# 産業建設常任委員会会議録

[平成24年 8月21日開催]

南あわじ市議会

# 産業建設常任委員会会議録

日 時 平成24年 8月21日  
午前10時00分 開会  
午前11時15分 閉会  
場 所 南あわじ市議会委員会室

## I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

### 出席委員（7名）

委 員 長	砂 田 杲 洋
副 委 員 長	谷 口 博 文
委 員	出 田 裕 重
委 員	阿 部 計 一
委 員	印 部 久 信
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	長 船 吉 博
議 長	楠 和 廣

### 事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
課 長	垣 光 弘
書 記	橋 詰 恭 子

### 説明のために出席した者の職氏名

市 長	中 田 勝 久
副 市 長	川 野 四 朗
産業振興部長	興 津 良 祐
農業振興部長	松 下 修
都市整備部長	山 崎 昌 広
下水道部長	道 上 光 明
産業振興部次長兼水産振興課長	早 川 益 弘
農業振興部次長	神 田 拓 治
都市整備部次長	垣 本 義 博

下水道部次長兼下水道課長	岩	倉	正	典
次長兼農業委員会事務局長	原	口	幸	夫
産業振興部商工観光課長	阿	部	員	久
産業振興部企業誘致課長	北	川	真由	美
農業振興部農林振興課長	松	本	安	民
農業振興部農地整備課長	喜	田	展	弘
農業振興部地籍調査課長	和	田	昌	治
農業振興部農業共済課長	宮	崎	須	次
都市整備部管理課長	和	田	幸	三
都市整備部建設課長	赤	松	啓	二
都市整備部都市計画課長	森	本	秀	利
下水道部企業経営課長	江	本	晴	己
下水道部下水道加入促進課長	松	本	典	浩
農業委員会事務局課長	小	谷	雅	信
国民宿舎支配人	北	川	満	夫

## II. 会議に付した事件

- 1. 所管事務調査について…………… 4
  - (1) 産業振興の推進について
  - (2) 農業振興の推進について
  - (3) 都市整備事業の推進について
  - (4) 下水道事業の推進について
  - (5) 農業委員会に関すること
  
- 2. 重点調査「食の拠点施設について」…………… 1 5
  
- 3. その他…………… 1 4

## III. 会議録

## 産業建設常任委員会

平成24年 8月21日(火)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午前11時15分)

○砂田泉洋委員長 おはようございます。

ただ今から産業建設特別委員会を開催いたします。

執行部何かありますか。

市長。

○市長(中田勝久) 何点か、お礼なり報告ということで申し上げたいと思います。

今日は産業建設常任委員会の所管事務調査ということで、議員の先生方ご苦勞様でございます。

まず8月15日、若人の広場の献花式には、大変熱い中、ご参列いただきましてありがとうございました。

この若人の広場の整備も今、順次進めております。当初、予定しておりました2年で全部ができるかどうかという場合、予算配分の関係もありまして、少し不透明なところもございますが、計画どおり進めていきたいと思っています。

また、新人形会館のグランドオープン、これもおかげで8月8日できました。いろいろご心配をおかけしましたが、何とか正常な状態で運営ができるよう今努力をいたしております。

それから3点目は、つい先日、17日、杉良太郎さんのご提唱いただいております南あわじ市でスイカをブランドにしていこうというようなご提案がございまして、いろいろと私どもも一緒に努力をしてまいりました。ただ、初めての栽培でございましたので、なかなか杉さんが望んでいるような、そういう昔の匂いと味は一番ではないのですが、やはりああいうスイカ独特の匂い、この種を探すのに大分苦勞しまして、この間の品評会では、もうひとがんばりというようなことでもございました。一応、方向性が出たので来年度は品種を絞って、そして農家の皆さんと栽培に努力していきたい。やはりそういうブランド品を作ることによりまして、スイカだけでなくして、南あわじ市のイメージアップ、また新しい農家の方々の意欲も上げていけたらなあと。皆さんもテレビを見て、北海道の「でんすけすいか」、これは一つ7千7、8百円で売れているようでございます。黒の皮でございまして、これも新しいブランドを作って、普通2,000円までのスイカが、そういうかたちで売れるということで、杉さんはそれを超えるんやと。良太郎スイカはそれを超えるスイカにしようという非常に強い思いを持っていただいております。また議員の先生方にもよろしくお願いたしたいと思っております。

あと、また公務が入っていますので、中座いたしますが、よろしく願いいたします。

○砂田杲洋委員長       ただ今から閉会中の継続調査として、申し入れてあります所管事務調査5件を一括して調査したいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○砂田杲洋委員長       異議がございませんので、5件一括して調査いたします。

なお、先般、本委員会で管外調査を行った「食の拠点施設について」は後ほど重点調査として予定しておりますので、それ以外の所管事務調査全般について、まず行いたいと思います。

お配りしていますレジメのとおり、1番から5番までについて何か質疑ございませんか。  
谷口副委員長。

○谷口博文副委員長       今年の観光客の入り込みというか、前年対比で、まだ把握はできてないと思いますけども、例えば海水浴客の入り込み前年対比どうであったとか、例えば人形会館の入り込み、分かっている範囲で、その辺の観光客の入り込みについての、そこらちょっと。

○砂田杲洋委員長       商工観光課長。

○商工観光課長(阿部員久)       まず海水浴場でございますが、慶野松原海水浴場、これは8月19日をもって終了しています。入り込み客数につきましては、10万8,432人ということで、対前年比が94.7%となっています。それで阿万海水浴場については、まだ現在開設中で、途中ではございますが、8月19日現在の入り込みで4万6,835人。対前年が104%となっています。

それで他の施設についてですが、今現在24年度第1四半期として4月から6月までの集計ができております。トータルの総入り込み数で64万7,000人となっています。主なものとしましては、観潮船が3万5,581人、対前年93.1%。イングランドの丘、12万2,793人、対前年が90.7%。人形座が6,800人、対前年が57.9%。これはちょうど記念館から新しい人形浄瑠璃館への移転がございまして、休業しておった期間があって減っているというところでございます。主なところがそんなもので、合計で64万7,000人というところでございます。

○砂田杲洋委員長       谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 新人形浄瑠璃館の入り込みというのはどんな推移で行っていますか。分かりますか。8月8日オープンしてからの、その辺で若干気になるので、分かる範囲で1日平均300人入っていると、分かりませんか。

○砂田杲洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） ちょっとまだオープンして日数が経っていませんのでまだ数字はつかんでおりません。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 先般、ちょっと私も自分の知り合いが観潮船のほうはかなりやな、セット券というか、順調にいつているんやけども。人形のほうは若干、少ないような、そういうような声があったんやけども、その当たりの把握もされていないんですか。

○砂田杲洋委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 私どものほうには毎日、入り込み客数について、報告を求めています。今、手持ちにはないのですが、だいたい今まで平均的には200人ぐらいを入れていただいております。一番多かったのは270何人ぐらい。少ないときは150人ぐらいということで、平均的には200人ということでございます。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 200人と言ったら、結局目標は8万人と言っていたら、200人だったら、まあまあ順調に目標に行っているような理解でよろしいですか。そしたら慶野海水浴場の入り込みが、もう一遍言って欲しいのですが。

○砂田杲洋委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（阿部員久） 慶野松原が10万8,432人です。

○砂田杲洋委員長 他に質疑ございませんか。  
長船委員。

○長船吉博委員 今、近畿各地でゲリラ的集中豪雨がものすごい襲っています。先般から会派で6箇所、議会報告という名目で回らせていただきました。

そこで丸山で前回の豪雨によつての災害のあとがまだ完全になされていないと。これは業者があつての話ですが、業者とも話をしても1週間後には工事にかかると言っても、かかつてもないし、それで住民の方々が言うのであれば、今、10ミリ以上の集中豪雨が降れば、またその災害が起こる可能性、危険を含んでおるといふことを言っております。特に盛り土にひずみがあつて、そういうところからまた土石流等になってしまうということを住民の方が言っておられるのですが、そこらのことは十分把握されておるのでしょうか。

○砂田杲洋委員長 建設課長。

○建設課長（赤松啓二） 具体的な場所がちょっと分かりにくいので、その災害。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 風力発電のところや。丸山・阿那賀の漁業組合長の作業場へ。

○砂田杲洋委員長 どこになるのかの、風力発電のところは。  
副市長。

○副市長（川野四朗） 市長公室です。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 しかし今雨降つたら、二次災害の恐れがあるということで、そこら都市整備等も含めて、やっぱり十分住民の方がそういうことを言っておるので、そこらもう少し、聞き取り調査なりしてもらいたいんですけども。それでまだ山から落ちてきた土砂が丸山沖に魚礁がたくさんはめられているんですよ。その魚礁に土砂が入っていつて今のところ、魚礁の役目を果たしていないと。そういう漁業関係者の方が言われているんですけども、そこらもどうなんですか、把握されているんですか。

○砂田杲洋委員長 産業振興部次長。



○産業振興部次長兼水産振興課長（早川益弘） 委員もご存じのとおり、丸山は県営、県の管理の漁港でして、ずっと18年から21年の3年間で2億ぐらいかけて投石、ネットブルーフ、いろんな魚礁を入れております。ただウインドファームの土砂災害のあったところからは距離的にはかなり丸山寄りを中心にその魚礁を設置していますので、魚礁自身に土砂の影響というのは少ないだろうと思います。ただ漁業関係者が言うのは土砂が大量に海に入ったことによって、魚が捕れにくくなったと。それともう1件、その近くで小さいんですが、養殖しておる個人がおります。そこが海から海水を引き込んで養殖を陸上でやっているんですが、それが出来にくくなったと。ずっと濁ったままの状態で行くということで、何らかの影響が漁業関係者ではあるだろうと。ただそこだけでの量がどれだけ減ったかとかいうのはまだ数字では出ておりませんが、影響があるという話は私のほうでは聞いております。

○砂田杲洋委員長 長船委員。

○長船吉博委員 ほんまに濁った水が来ればほとんど魚がいなくなるんよな。逃げてしまふんや。特に土砂、ごっつい濁ったやつだったら、ほんまに魚は深いところへ深いところへ逃げて行ってしまふ。ですから今、当然漁業関係者が魚礁にまで影響を及ぼしておるということを僕らにはっきり言ったんで、やはりそれなりの当事者が日頃漁業をやっている中ででも感じておることだと。事実だと僕は思っておるんです。

ですから、そこらにおいても、その業者間との交渉もあるんだろうけれども、まったくその交渉しても「糠に釘」というか、一週間後には工事をかかると言っておってもまったくかかっていないということをおるので、もっと市としてもこの風力発電においてもある程度、なんらかのかたちで許可という中田市長の判も押しておるということのなかで、解決に向けてのご協力願いたいということをお強く要望されておりましたので、そこらのことを今後含めて、どんなかたちになるか分かりませんが、僕らも逐次そういう旨を皆さん方にお願ひなり、協力していただけることを言っていこうというふうにお思っておりますので、よろしくお願ひしておいて、これで終わります。

○砂田杲洋委員長 他に質疑ございませんか。  
印部委員。

○印部久信委員 2つあるんですが、まず1つ。何日か前の新聞で、昨年度鳴り物入りで発足した米の先物取引がどうも取扱量が少なくて、東京市場を閉めて、大阪市場にするというようなことが書いてあったんですが、先物市場が閉鎖されているということについて、何か、農業振興部でこの辺についての情報を持っていますか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 米の先物取引の情報については、特にこちらのほうではつかんでおりません。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 発足当初から民間の業者だけであって、全農がこの米の先物取引には参加しないということで、当初から危ぶまれておったわけですが、結果そのようなかたちになってきて、取引量が非常に少なくて市場が成り立たないということです。

こういうことになって、先物市場ということでもありますので、リスクヘッジの関係で米の乱高下を防ぐという大きな役割があったようなんですが、これが機能しないということで、将来T P Pの関係がどうなるか分かりませんが、この辺で米の価格の問題等が、この先物市場である程度、価格の乱高下が抑制されていくのかなと思っていたのですが、結果は思い通りになっていないようです。またこのことは我々もこの辺のしくみが正確に分かっていませんので、また何か情報があれば教えて貰いたいと思っております。

それともう一点、今年、和牛の共進会のことなんですが、今年は5年に1度の全国和牛共進会が長崎で行われるわけですね。兵庫県の和牛の共進会が今年は確か加古川だったと思うのですが、25年度、あわじ島農協がぜひ今度南あわじ市でやりたいというようなことを言っているのを聞く訳ですが、農業振興部においてはこのことについて、あわじ島農協の方から何か要請とかお願いとかそういうことが言われておりますか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 県の共進会については、特にJ Aの方との情報はもらっていません。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 担当者の方の話を聞いておりましたら、ちょっと昨日、他の会がありまして、雑談しておりましたらそういったことを言っておりました。来年度のことになると、もうすでに来年度予算のこともあるので、10月、11月ぐらいには市と話をしておかないと、いかんのと違うかということを書いてあったわけなんですけど、まだそういうような要請は市のほうへは来ていませんか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 特に来ておりません。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 そう言っていましたので、いずれ市のほうには相談に来ると思いますので、よく話を聞いていただいて、前は数年前にイングランドの丘の広場で県の共進会があったと思うんですね。4、5年前になるのかな。ちょっと今、記憶にないのですが、そういうこともありますので、またそういう話が来ましたら、できるだけ開催できるように市のほうもよく話を聞いていただいて、協力していただけたらと思っております。その辺いかがですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 県の共進会につきましては、それぞれの農協さんと開催する自治体が負担金というか、ある程度の経費を負担するようになりますので、全体の経費を相談しながら、当然うちも予算の財政とも相談して対応していきたいと思っております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 特に農業振興、畜産振興の意味からにおいてもこういうことは、やることによってマイナスではないと思うので、ぜひその辺は前向きな考えでやっていただきたいと思っております。終わります。

○砂田杲洋委員長 その他何かありませんか。  
阿部委員。

○阿部計一委員 河川について。これまでたびたび委員会で話をしたと思うのですが、塩屋川河川のカーブのところの改修についてなんです、前もお話しましたが、平成3年にですね、きついカーブやから緩やかにするということで、県が2反か3反、県が改修してそっち、今だに置いてありますよね。それで確かに河川の上部だけはちょっと広くしとるんです。しかしあれでは結局、もっと下のほうをやらんことにはね、河川改修、大

きな水とか、特にこれから津波でそういう遡上してきた場合ね、もたないと思うんですよ。そんなんで市として、そういうふうな話を県のほうへつないでいただいているのか、たびたび言っていますが、その点、話をしたことがありますか。

○砂田杲洋委員長            管理課長。

○管理課長（和田幸三）            塩屋川につきましては、地元の改修委員会ですか、そこら辺ともお話させていただきながら、県のほうとの調整も去年から行っております。具体的に本年、県のほうの回答としましては津波対策等の遡上対策も含めて、全体的な計画をしたいとお話がありましたが、24年度につきましては、災害関連事業というかたちで百軒堀の近くのカーブの部分につきましては、予算措置がとれたということで、約100メートル程度の県の土地ですか、圃場整備で確保した土地の部分のカーブ部分について、改修工事が本年度行われる予定で進んでいます。あと対岸につきましては、約25センチ程度のかさ上げを行うということで、それも県のほうで計画してございまして、延長的には全延長というかたちではございませんが、一部、特に危険な箇所につきましては県のほうで何とか予算確保していただいて、実施できる見込みとなっております。

○砂田杲洋委員長            阿部委員。

○阿部計一委員            特に北阿万のほうで圃場整備をするということで、当初お聞きしたら、その圃場整備をした水は塩屋川のほうに来ないと言っていたけども、そんなはずはないと思う。やっぱり県もそういう急カーブで危険と思うから平成3年、21年も前に用地を確保してやね、準備をしておることがいまだに実行していない。24年度にそういうようなかたちでやるということですけども、やはりそういうことはもうちょっと早いことやね、やっていただくようにしていかないと。知事も懇談会や、そこらの中では河川改修については、津波関係のもの以外は予算はつけないんやということもおっしゃっていたし、この際、そういう危険な箇所は積極的にアプローチをして、やっていただくようお願いしたい。24年度でそういうようなかたちになっていくのであれば結構なことだと思います。以上です。

○砂田杲洋委員長            他に質疑ございませんか。  
谷口副委員長。

○谷口博文副委員長            単純な質問ですが、下水道事業についてお尋ねするんですが。将来的に下水道事業というのは市の財政をかなり圧迫するような、私は財政に厳しいような

状況下になっていくんではないかという思いがあるんですが、その辺で、管理コストの削減とか、汚泥の減量化であったりして、コスト削減なり、汚泥の利活用というか、そのあたりに対する下水道のほうの今のお考えというか、その辺、コスト削減なり、汚泥の利活用についてのお考えは何かありますか。

○砂田泉洋委員長          下水道部長。

○下水道部長（道上光明）          今、汚泥、毎年毎年、供用開始とともに接続が増えてきましたら、確かに汚泥のほうも増えて参ります。コストも大変上がって参ります。その中で今、汚泥の有効利用として、色んな煉瓦にしたり、肥料にしたりするいろいろなことがあります。それが今現在の南あわじ市の量だけでそういう施設を今、作っていく。そういうことに対するコストのほうがかなりかかって参ります。早い話が全島、今汚泥の量、全部集めてコストが十分やっつけられるような、そういうふうな全体の量がまだとてもじゃないけど、できておりません。量がたくさん集めて、それがどんだけになったらやっつけられるのかという話もあるんですが、ただ有効利用することのできる施設に回すだけの汚泥が、今ははっきり言って、できない状態でありますので、今のところは最終処分、今2箇所ほどやっておるのですが、できましたら有効にする考えにしておりますけども、今、今度汚泥を要するに出さないようにする、減量する、作っていく段階でその汚泥が出るとしてもそれを減らしていくような方法も今、考えておりますので、出さないように、作らないようにした方がいいじゃないかなという気持ちもございます。

以上でございます。

○砂田泉洋委員長          谷口副委員長。

○谷口博文副委員長          先般、部長もあれやけど、下水道展を見てきたら汚泥の利活用とか、その当たり、それなりの私も、こういうような利用もあるんやと思いがあったんですが、今、市の汚泥の処理というのは年間どれだけ出て、どれだけ産廃業者に対する支出はされておられますか。

○砂田泉洋委員長          下水道部長。

○下水道部長（道上光明）          汚泥の量でございますが、1,664トン。約1,700トン出ております。それから、汚泥と言いましても、農業集落排水の方の汚泥は濃縮しないといけませんけども、その分につきましては1,273立米の量が今出ています。これは23年度の方でございます。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 業者に対する処理費用というのはいくらかかっていますか。トン1万6千円とか1万8千円とかで。

○砂田杲洋委員長 下水道部長。

○下水道部長（道上光明） これは今1万8,900円/トンでございます。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 そしたら23年度はいくら払っているんで。

○砂田杲洋委員長 下水道部長。

○下水道部長（道上光明） ざっと4,800万円でございます。それと今言いました、衛生センターのほうに運んでいますのは7,875円/立米でございますので、その分を合わせまして4,800万円でございます。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 この汚泥を農家の方が堆肥に利用したいというような要望があるわけですが、そこらは産廃やから農振の堆肥利用というのは難しいんですか。

○砂田杲洋委員長 下水道部長。

○下水道部長（道上光明） もちろん産廃なんですけど、業者がそういうふうな利益を求め、いろいろしていくには、やはりその中の免許というか、中間処理とか、運搬の処理、これは必ず最低限必要になってきます。それをとっていただくというのが第一条件かと思うのですが。

○砂田杲洋委員長 他に質疑ございませんか。

無ければ質疑を終結したいと思いますけど、よろしいですか。

それでは質疑を終結します。

次にその他に入りますが、所管外を含めて質疑ございませんか。

阿部委員。

○阿部計一委員 単純なことをお聞きするのですが、今、テレビ等、新聞もそうですが、食料自給率、日本のね、何か今40%を切るというようなことを言われていますけども、私気がつくのは淡路では100%以上あるんやということを言っているんですが、これは確かな淡路の食料自給率というのはどのぐらいなんですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 本市の食料自給率は約170%を超えておって、今現在国の目指す食料自給率50%以上ということに対しては大きくかけ離れた数字でいっています。これはカロリーベースの計算で、あと重量計算とかいろいろあるので。一応カロリーベースでは170%を超えています。国は50%以上を目指したいということで。

○砂田杲洋委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 最近のニュースでは40%を切るということを言われている。私もちよいちよい話をする中では100%以上あるんやということはずっと言っていたけども、170%もあるというのは、全国的なそういう40%切ると言っているのと、どうしてそんなに違うんですか。分かったら。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（松下 修） 南あわじの耕地利用率というのがありまして、それが165%。兵庫県では84%ということなんですけど、今の食料自給率に関しましても全国では今、41%なんですけど、淡路島では110%、南あわじ市で173%ということなんですけど、やはりこの温暖な気候が年間を通じて野菜の作付け等ができるということで、このような大きい173%もあるような数字になっておるんじゃないかと思っております。

○砂田杲洋委員長 他に質疑ございませんか。

無ければ質疑を終結したいと思います。

執行部から何か報告ございませんか。

農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 来月9月29日、30日とまた南あわじ市食まつり・畜産共進会を淡路島牧場で計画をしております。後日議員の皆さんにはご案内させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○砂田杲洋委員長 それでは所管事務調査全般については、これで終了いたします。重点調査の説明員となられる方以外は、ご退席ください。暫時休憩します。

（休憩 午前10時35分）

（再開 午前10時45分）

○砂田杲洋委員長 再開します。重点調査として食の拠点について、質疑ございませんか。出田委員。

○出田裕重委員 せっかく視察報告書が出来ていると思うので、配っていただけるといいのかなと思うのですが。

○砂田杲洋委員長 コピーしておってください。他に質疑は何か。印部委員。

○印部久信委員 この食の拠点ですが、前回委員会で直前の委員会でなしに、大分前だと思っておりますが、聞いたときに、あのときの答弁ではですね、もう場所もだいたい3箇所絞り込んだと。すでに食の拠点がほぼ順調に進んでおるがごときの発言を聞いた訳ですね。実際の話、この食の拠点というのは、担当部はどこまで計画ができておるんですか。あのときの部長の話では、ほぼ計画が出来ておるような発言であったように思うんですね。とにかく今、市の担当部はどの程度まで食の拠点ということについて進んでおるんですか。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（松下 修） 食の拠点につきまして、ただ今のところワーキングチームというのを結成しまして、今まで8回程度、会をしております。今年の4月には新たに民間からも広報によって公募しまして、10名の委員さんを追加しております。今、全体



では30名程度なんです、さっき言われておった食の拠点の場所については実はまだ決定しておりません。ワーキングチームの会をいたしましてもまだその3箇所以外のところもいいんじゃないかといういろいろな意見も出ておりますので、ワーキングチームでの会というのは民間の方もいらっしゃるんですけども、決定権のない担当者会のようなかたちでございまして。そこで決まったことをその上の協議会のほうに持っていきまして、そこでは市長、また組合長さんとかかなり決定権の持った協議会、そこで決めて貰いたいかなというような段階でございまして、いまだにいろいろ先進地のところから講師を呼んで、研修会も行い、大学の教授さんと呼んでオブザーバーになってもらったりしながら進めておるのですが、いまだに場所も決まらず、運営主体もまだ決定していないような状況でございまして。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 いや、市の考えとしたら、この食の拠点、いわゆる直販所、あるいはレストランを併設した施設をどうするかたちであっても作るという前提のもとで話を委員を増やして協議会を作りながらやっていくんだと。どういう形であってもこういう施設は市として作るんだという前提のもとで話を進めているのか。それとも協議をして、やっていけるかどうか、こういうかたちの施設が果たして市として作って、やっていけるかどうかというのを検討しているのか。どっち。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（松下 修） 儲かる農業をする。それとか前に言っておった、南あわじ市の食を求めて来られる方が、旬の野菜とか、いろいろな畜産物とかに舌鼓を打って、それを尚且つ手にとって商品を買うような施設を作らんかというようなこと。その思いについて、また南あわじ市の農業に新しいかたちを作ると。こういう目的で私どもも一生懸命やっておりますが、市だけではできるような施設ではないと思っております。しかし今、淡路島のなかではそういう大型施設、そういう食べる場所というものが現在少ないかなあと。今、やらなければチャンス逃すのではないかというふうな考えで平成27年の4月にはオープンしたいなというつもりで邁進しているところでございまして。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ということは、今の部長の説明ではいつかの委員会においては事業規模も13億5千万円か何かそういうような金額が確か言われたと思うのですが、予算の事

業規模もできておると。今の協議会はありきで方法論について、協議をしているんですか。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（松下 修） やはり参加団体とかの状況によりましては、今、以前に発表しておったような大きさの施設。ひょっとしたらやっぱり少し規模を小さくせざるをえなくなるようなこともあるんでないかと思っております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 ということは部長、市の方針としたらやるんだと。事業規模は多少の変動はあってもやるんだと。でもとにかく委員会、協議会はすでにやる方向であとは方法論という段階ですか、今は。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（松下 修） まだそこまでいっていないように私のほうでは感じております。要は運営主体が変わることによって、やり方が大きく違ってくるんじゃないかという危惧も持っていますので、市が農業の専門知識と持っているとは思っておりませんが、やっぱり商品とかそこらの考え方、またレストランの考え方についてもかなり専門的な知識が必要ではないかなというふうに思っておりますし、位置とか決まらないことには、今年度1, 400万円ほどおいているのですが、コンサル委託、かけるわけにはいけないかなと。これ決定して初めて委託にかけられるんじゃないかと。その委託のできた結果によってもまたいろいろ協議していかなければならないのかなと思っております。

○砂田杲洋委員長 印部委員。

○印部久信委員 今の段階で話をどこまで聞いていいか分からないところがあるのですが、やるという方向でやっていると。あと方法論ですね。協議会においてはですね、市が直営で運営する場合も一つありますよね。それから市が施設を作って指定管理でやる方法もありますよね。それと市が施設を作って、あとの運営を会社組織にして、株式会社にして、施設は市が作ると。後の運営は株式会社にして、株主で、会社経営でやっていくとかいろんな方法というのがあると思うんですね。事業主体をどこにするかとか。ただ、ものは市が作るということは、これは間違いのないことなんですか。

○砂田杲洋委員長            農業振興部次長。

○農業振興部次長（神田拓治）            議員さんご存じのとおり、食の拠点については直売所、レストラン、それと情報発信基地、加工用施設、農業体験施設、そういう含めた総合的なコンセプトで市が取り組んで行きたいなと思っております。

事業主体ですが、今、部長が言われたように、ワーキングチームで今、取り組んで、今とりまとめを行っている状況です。これを上部組織の協議会に答申していこうかなど。今、その答申する資料を作成している段階です。協議会のほうである程度その答申について、回答いただきたいなど。その回答によって方向性を見極めたいなと思っておりますが、今、現段階で考えておるのは、初期投資については行政のほうである程度、事業費を見ようかなど。後の分に、建物の運営については、ある程度、さっき議員さんが言われたように、一番最後のほうの会社組織で、できたら運営してもらいたいなというようなことで、そういうようなことでワーキングチームに協議会に諮ってみますと、組織団体を誰が管理主体になるんやと。その烏合の対象が500人、600人が集まったなかで、どうやって管理主体を運営していくんやというような意見も出ました。それについては管理主体ですので、うちとしてはある程度、株式会社ですので、出資もお願いしたいなど。出資の割合によって、誰が運営するのか。それについては今後、大きな問題があるのですが、参加者を募らないといけないと。募らないといけないんやけども、こういう規模で、こういうコンセプトでうちがやりたいんやけども、それに賛同する人を集めないといけないと。そういうところの組織づくりに今ちょっと取りかかっているのですが、それが大きな問題やなという状況でございます。

○砂田杲洋委員長            他に質疑ございませんか。

谷口副委員長。

○谷口博文副委員長            私も南あわじ市の地の利というのは、先ほどカロリーベースで食料自給率170%を超える食材があると。それで当然食の拠点をずっといってもらったら、JAなりが比較的協力していただかないといけないような状況下にあるのではないかと、私はそういうふうに思いがあるわけです。それで淡路島酪農さんであったり、水交会であったり、個々それぞれ努力しているだけけれども、商品の販売等々について、私は停滞しているような状況下にあるので、食の拠点を通じてどんどん商品開発なり、新たな南あわじ市の商品を発信していただきたいという思いがあるんですが。

JAの考えよね、どこの施設を行っていったってそのようにJAが主体的になっていただいているんやけども、その辺、JAの考えというのは、今の現状においてどのようなお考えをお持ちなんですか。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（松下 修） J Aさんにつきましては、私どももJ Aさんの幹部職員さんらと協議もしておりますけれども、今のところ継続審議ということで、まだ返事はいただいております。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 その当たり、南あわじ市の食材というかですよ、J Aさんがある程度積極的に、前向きに取り組んでいただけなかったら、食の拠点というのは酪農さんなり水交会だけでやな、例えば農産物であったり、加工食品であったり、乳製品であったり、また魚というかそこらを淡路島のこの豊かな食の宝庫を発信するうえにおいて、どうしてもその辺がそれなりの主体性を持って頂かないことには成功しないと思うんやけども。

その辺、今のワーキングチームの中に、民間の方も先ほど公募で10名入られたと話があったんですが、当然J Aなり、酪農であり、水交会であり、というのは当然入っていただいていると思うのですが、そのあたりで今、事業主体の方向を検討しているというようなことなんですか。

○砂田杲洋委員長 農業振興部長。

○農業振興部長（松下 修） 今、事業主体の検討については、J Aさんがなってくれたらなあというような意見もございますが、J Aさんとしてもなかなか判断ができないようなところもありまして、いまだに希望とか聞いておるのですが、明快な返事はいただいております。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 この場で聞いていいものか、淡路島酪農の方よね、あの辺も組合員の数が減少してきているような状況下、私はそのような話を聞いているんですが、現状、酪農さんの組合員の数というのは、減少。かつて200いたのが今160とか、そういう数字分かる範囲で教えて頂けますか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 現在、酪農さん、ご存じの通り洲本酪農と合併していますので、全部で170ぐらい。そのうち洲本の方が23ぐらいで、今147か146ぐらいです。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 南あわじ市のブランドにしている淡路島ほんまもんたまねぎというのは、有機というか、そういうふうな酪農さんからの堆肥のというか、その辺の利用があって、土づくりがあって、南あわじ市のレタスであったり、たまねぎであったり、白菜であったり、キャベツであったりというのができてきよと思うんよね。私は酪農が衰退することによって、農産物への影響があるという思いがあるんですが、そのあたりの考えはどうなんですか。

○砂田杲洋委員長 農林振興課長。

○農林振興課長（松本安民） 当然、谷口先生ご指摘のとおり、三原平野の三毛作の原点というのは、畜産と連携した土作りが原点と考えております。ただどことも農業全般の話なんですが、担い手不足と後継者。特に酪農については、この前も酪農の方と相談したんですが、新規就農するときに非常に初期投資というか、設備投資が大きくてなかなか新規就農の方が見当たらないと。親元就農というか、そういう代々続いているような多いというのが現状です。市のほうとしましても土作りということで、堆肥調整とかしていますが、基本的には製品の販売、優良牛といいますが、北海道牛とか、乳量の多い牛をいっぱい育ててもらおうとか、そういうところで今後も応援していきたいと考えています。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 私は食の拠点づくりには何を期待しているかといえば、雇用の創出ですわ。働く場所を確保していただけると。日本全国そうですが、南あわじ市においても自然減というか、出生率、亡くなる方だけでも300人、また高校が出た方がだいた400人のうちの300人が島外に出て行くと。毎年600人ぐらいの自然減で南あわじ市から人口がどんどん減少していると、言い換えれば1年間で沼島の人口、沼島が消えていくぐらいの人口流出が始まっておると。それはなぜかと言えば、やっぱり働く場所、雇用の確保をしないことには、私は人口流出に歯止めが効かないという思いがあって、この食の拠点に対しては大きな期待があるわけですね。先ほど課長がおっしゃっていたように、農業の後継者であったり、酪農の後継者であったり、漁業の後継者が育っていないと。そ

これは収益というか、所得の確保ができていないということで、後継者不足に至っているのではないかと、私はそういうふうな思いがあるわけですね。

先ほど言っていたように、食の宝庫南あわじ市を大々的にやっていくうえにおいて、付加価値を付けて、今6次産業というような商品開発、生産加工販売も含めたうえで、生産者また一次産業の方々の所得の向上を図るべきやと。私はそういうような思いがあって、水交会も要は、漁価というか、その当たりで、低迷しているような、私も漁業関係者から聞くんですが、漁業関係者の所得というのは、現状ではどうですか。

○砂田杲洋委員長 産業振興部次長。

○産業振興部次長兼水産振興課長（早川益弘） 所得が低いぐらいで、詳しくは私も把握はしておりません。申し訳ございません。

○砂田杲洋委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 かつて南あわじ市は一次産業が今日の南あわじ市を支えているという思いがあるんです。簡単に企業誘致してこいと言ったって、今の日本のエネルギーが満足ではないようなこの関西圏で、まして淡路、製造業等々の企業誘致というのは、私、比較的、理想はそれぞれそういう市民の方の「学校の跡地を企業誘致でもってこい」というような話があるけども、現状をやっぱり。この地の利を活かした食の拠点というのは積極的に進めて頂きたいという思いがありますので、部長、先進地、成功例のところを十分把握して、成功するように努力していただきたいということを要望して、これはこれで終わります。

○砂田杲洋委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 やっぱりこの種の事業については、全国的に見て、私も報告書にかなり具体的なことを書かせていただいておりますが、成功例が少ないというのは事実ですよね。それと結局は行ったところについては、通勤範囲、1時間以内で200万の人口を抱えておるということで、人口が多いと。淡路でする場合、淡路全部にしても14万人。そういうふうなことなりを加味した中においては、やはり経営的に成り立たなかったらあかんのであって、私は十分調査し、ワーキングチームでどういうふうな検討をしているのか知りませんが、最終的には市が決定権を持って上げていくんやから、どうしても身の丈にあったというか、そういうふうな無理しなくてもいくような方法を考えていって、この視察でも行って、少し始めてから増設して行って広げて行ったという。ほやからあんまり

風呂敷を初めから広げて過大投資等々のないようにするのと、参画する人をきちっと精査したなかでやっていくのと、リーダーですね、どこ行ってもリーダー。精通したこれというリーダーがおらなければ、何も成功していないと思いますので、人の問題から始めて、参加者の考え、それと自立、独立できるようなひとつの会社組織で立ち上げていかなければ絶対いかんという。というのは、参加する人は出資金も出して、ある程度金額だせば自分としても経営者の一員としてやるんだという気持ちも持たせたなかで、それぞれ決めていかななくてはならないと思うので、私は十分、全国の事例等々失敗例はたくさんあるんですが、成功例少ないんですけども、それらを踏まえながらやっていくのと、先ほど誰かが言っていたJAですか、どこかが大きな核となって。

農協が参画しているとか、視察で最初行ったのは農協が100%出資。そういうふうな核になるところにもって行って人作りから始めて、それに専門できるプロですね。プロをきっちりと起ち上げの時点からそういうふうな人材を発掘していく必要があると考えておりますので、慎重に、十分、始めて船が出たら引っ込められませんのでね、それを気を付けていただいて、いろいろやったなかでこういう堅実な歩みができる組織なり、そういうふうな運営方法なりをやっていただきたいなというようなことを思いますので、この機会にそういうふうな感想として申し上げたいと思いますので、十分、精査したなかで進めていただきたいと思います。

悪いことではないと思います。活性化のためにはやらなければいけないので、やれる方法をどんな方法がいいかということをも十分考えて、最終、市長が決定権を持ってやってくんやから、そこらを間違えないような方向でスタートできるような一つの研究等々を十分関係者と話をさせていただきたいと思います。

以上で終わります。

○砂田泉洋委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 先ほどからお話を聞いていますとね、えらい失礼ですが、今の段階ではこれも市長が自ら九州へ足を運んで我々と視察にも行っていた。これは市長自らがやる気があるという意気込みは分かりますが、これワーキングチーム30名とかいろいろ話を聞いたらね、何かプロセスを見ているすと、はっきり言って、ワーワー言ったら終わりやなあと。私はやっぱりこれは先ほどのJAとの協力がなかったら絶対できないと思う。JAの幹部と話をしていると言ったって、やっぱりトップダウンで、トップ同士がそういう話をして、第一が場所の決定をトップダウンで決めたらええんや。それでJAのトップと話をして、そこから行かないと農協の幹部となんかと話をしたって前に行くわけがない。そこらをやっていかなかったら。それで出来上がったらそういうカリスマ性のある、また淡路にはそういう一つの組織ができればやったろかと言う人がある可能性もありますし、

そういうことをやっていかないと、今のような何か後足を踏んでいく。これまでの中田市長の実行力というのは大学誘致にしても人形、いろいろな意見があってもトップダウンでやりきっているわな。何でもやってそれが儲かるというならば誰でもできるからな。結果は良い悪いは、市長も我々と同じ、4年任期が済んだら選挙があるから、住民がその成果を今度は得票に表すねんからね、やっぱりもっと市長もそういうかたちでやっているんですから、トップが動いて「わし、どこでやる」と。こんなんいちいち会でやな、言っても決まるはずもないし、やる気があるんだったら、まず農協とのトップ会談な。それやって、農協のほうはどういうふうを考えているのかなということをやっぱりやってね、前に進めていかなければ、今の調子で行っていたら、絶対できないだろう。農協とタイアップしなかったら絶対できないと思うで。もちろん水交会もそうやけども、やっぱりそういう拠点施設というのは市長自らやると言っ、視察まで付いてこられてやっているんだから、やっぱり今日は市長いないけども、トップで決めて第一に場所の選定をトップでバンと決めたら話が前に行くと思うので。そんなので、一回市長にもそういうことを委員会でトップダウンでやってくれと。それで今の組合長は幹部のいうことや聞けへんで。いやほんまや。それをやって、前に進めて。

私は良い悪いは分かりません。視察してきて、なかなか人口の少ないところで厳しいなとは思いますが、トップがやる気になっているんだから、やっぱり成功する可能性もあると思うし、まず場所を決めて、前向きに。後足を踏むような事ばかり言うんだったら、絶対できへん。強く委員会で阿部計一が言っていたと市長に言っておいてください。トップ同士、話をして前に進めて行かなかったら。

答弁は結構です。

○砂田果洋委員長 各委員の意見を聞いていたらもっともな意見だと思いますので、それを参考に、ただ入れ物を作って終わりということではなくて、成功しないといけないので、各委員の意見を頭に入れて、市長に言っておいてください。

出田委員。

○出田裕重委員 私も阿部委員の意見に賛成です。それと、先ほど次長からコンセプトを5つも6つも挙げていましたが、僕はまず1つでいいと思いますよ。そんな大風呂敷ではないかも分からないけども、結局、行政で当たり障りのない色んな種類のものを最初から作ろうとして、だからみんな寄ってこないと思うんですよね。誰かが手を挙げて、一つの事業をするんだったら、そこからでも始めていって、後から拡張していくみたいな感じで構えてもいいと思いますし、この視察して見てきたところもやっぱり10年、15年経ったところ、完成形を見てきているじゃないですか。最初から全部やっているはずじゃないので、そういうのでないとなかなか始まらないと思います。



○砂田杲洋委員長            農業振興部次長。

○農業振興部次長（神田拓治）            当然、先ほど説明させていただいた5施設等については一気にしようとは思っていません。うちのほうも初期投資が行政のほうである程度見ようかなと思っておりますが、財源的に国の支援もいただきたいということで、この活性化プロジェクト交付金の農産物と水産物、両方がセットでできる事業があるということで、取り組んでいきたいということで、国交省と話、6月行ってきました。5年計画ということで、当面は先ほど言いました直売所とレストランを整備したいと。それで順次5年間かけて後の分野も広げていきたいと思っております。

○砂田杲洋委員長            他に質疑ございませんか。  
なければ産業建設常任委員会を閉会いたします。  
ご苦労様でございました。

(閉会 午前11時15分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成24年8月21日

南あわじ市議会産業建設常任委員会

委員長 砂 田 杲 洋